



CVV(シビルベテランズ&ボランティアズ)が「古代史における土木遺産についての講演会と対談」を開催

CVV(シビルベテランズ&ボランティアズ)は「古代史における土木遺産についての講演会と対談」を土木学会関西支部と吹田市教育委員会の後援を得て、大阪市立中央公会堂(中之島)で開催した。講演者は国立民族学博物館名誉教授で現在吹田市立博物館長である小山修三先生にお願いし、対談では近畿大学工学部教授の谷平勉氏にお願いして、土木工学的観点から古代史における土木遺産についての疑問点や考古学への期待などを述べてもらった。小山先生は考古学会の権威者であり、多くの著書があるが、特に縄文文化を専門とされ、オーストラリア・アボリジニの研究でも有名である。また先生は縄文時代の人口の推計を試みられるなど、考古学を定量的に研究されている。講演では縄文時代は氷河期の終わりとともに始まり、それは15,000



▲ 会場風景

年～12,000年前とし、2,300年前まで続き、それから弥生時代になる。旧石器時代の人口は10の3乗台だったのが、縄文時代には10の5乗台になり、弥生時代には10の7乗から10の8乗になり、現代に至る。

次に先生は三内丸山遺跡の調査・研究を精力的にされたので、その調査結果の報告をされ、それを受けて谷平先生から土木工学的な観点からの質問がされた。三内丸山遺跡では直径1mを超える柱痕が6個見つかっているが、それはどこから運ばれたのか。また、どのように運搬したのか。また新潟県・北海道からヒスイ・黒曜石が運び込まれていたが、その運搬はどうしたか。交易ネットワークがあったのか。木はどうしたか。疑問はつきなかったが、この講演は土木技術者が古代土木遺産に大きく関心をもつ機会になり、一般市民の土木事業に関する理解を深めた。(CVV 村上 正)